

コウノトリが舞い降りる豊田のお米

小山市北西部に位置する「豊かな田んぼ豊田」は、恵まれた自然・豊富な水資源・肥沃な土壌環境であったことから水田農業が古来より盛んな市内有数の地域です。当社はプラネタリーヘルスを基本理念とし、ヒト・自然・社会が循環する地域社会を目指します。また、未来の日本を背負う子供たちや子孫の食と健康を支え、農業を通して日本の伝統文化や豊かな自然環境を次世代へ継承します。

【ホスピタリティー】

- ・地域に根ざした持続可能な農業に取り組みます
- ・自然環境と調和した農業に取り組みます
- ・小山市学校有機給食推進に寄与します
- ・健康促進・体質改善・予防医療推進に寄与します
- ・伝統文化を尊重し、次世代継承に寄与します



【プラネタリーヘルス】

「地球の健康は人間の健康に直結する」という理念です。地球環境を破壊することは、健康を破壊すること。重要なのは、常に地球環境が念頭にくることです。私たちの身体は、全て食べ物でできています。つまり、食べ物は単なるカロリーの塊だけでなく、ミネラル・食物繊維・ファイトケミカルを含みます。これまで、このカロリーベースが大きなエネルギー源になっていますが、近年その他のミネラル・食物繊維・ファイトケミカルのような生命維持源が日々の健康に大きく寄与していると考えられています。明日、未来、家族の健康は、地球環境を守ること。地球環境から身体を見直しましょう。

【必要としているひとに届けたい】

未来の希望である子供達に本当に安全なミネラルたっぷりのお米を届けたい。この理念から、小山市有機給食をはじめ支援センター・幼稚園に向けて全力でお米を供給します。

また、妊婦さんに向けても、母体はもちろんお腹の赤ちゃんの健康をサポートしたい。もちろん、健康維持や自然環境保全に関心の高い方、化学物質過敏症に悩まれている方、この理念に賛同される方に是非お届けしたいと考えています。

【地の利を味方に】

土づくりは、稲刈り直後からスタートします。「田んぼの宝」である藁（わら）の分解を促進させるために発酵ケイフンを施肥します。この分解促進こそが土づくりなのです。豊富な藁（わら）に含まれる炭水化物がおいしいお米を作る秘訣です。春先には、春雑草を肥料源とする植物性窒素や海のミネラルを多く含んだ牡蠣殻・貝化石肥料は、害虫に負けない強靱な細胞壁と骨格を形成します。さらに、自家製造した納豆菌・米ぬかに含まれる乳酸菌・天然酵母菌のバイオスティミュラント培養液を水田に注入することで、自然界の有用菌を活性化させます。多様な有機物や微生物の働きによる発酵した田んぼ（発酵田）は、硝酸態窒素が低減され、ミネラルが豊富という理想のお米を作ります。地の利を味方に、「豊かな田んぼ旧豊田村」で育まれた自然豊かな豊田米は、土壌・気候・地形・生物環境・地域住民が創りあげたテロワールによって培われた私たちの貴重な財産です。

※発酵ケイフンは、県内養鶏場から有機JAS認定を受けた抗生物質や化学物質を使用していらず、飼料産地についても県内産で安全な肥料です。

【田んぼの働く救世主たち】

田んぼには、多様な小動物が生息します。多くのカエル特に東京ダルマガエルは、カメムシを捕食し天敵としてお米を守ります。アキアカネなどのトンボは、成虫幼虫（ヤゴ）ともに肉食で小動物を食べています。イトミミズは、土壌中の有機物を食べながら土を耕し、ミミズのフンは豊富な肥料と微生物群を含みます。その他にもホウネンエビ・カブトガニ・タガメ・ドジョウ・小魚等が生息し、田んぼは自然界そのものです。無農薬無化学肥料栽培をすることは、多様な生物が生息しその自然の摂理が病虫害被害の低減させます。この田んぼが生み出す自然サイクルは、川・海・山を豊かにします。

【豊芦原瑞穂の国ニッポン】

①土木大国

縄文時代から連綿と継承されてきた水田稲作は、土木・測量・河川・灌漑等の多くインフラ技術向上に貢献し、日本列島の国土保全や安全保障に大きく寄与してきました。

②自然大国

国土面積の約7割りが山地であり、山から流れる水には、鉄・ケイ素など豊富なミネラルを水田に供給します。その豊富なミネラルは稲だけでなく、豊かな生態系を築き河川に流れやがて美しい海を育てます。雨・山・田・川・海は常に貴重な資源循環しています。

③長寿大国

古来より、先人たちは水田にある多様な土壌微生物やミネラルの働きによって、腸内環境を整え、体調改善だけでなく脳を活性化させ健康寿命を伸ばしてきました。これは、お腹の中の赤ちゃんから培われます。

【今後の課題】

①カメムシによる被害

近年のカメムシの大量発生に伴い、減収だけでなく、白米に約1%未満の斑点米（黒ずんだお米）が混入してしまいます。食味や健康上の害はございませんが、今後は食害されないお米作りを基本として色彩選別機という機械の導入により斑点米混入を防いでいきたいと考えています。

②隣接圃場の農薬飛散と農業用水リスク

隣接圃場が慣行栽培の場合、除草剤や農薬の飛散リスクが生じます。この対策として、隣接圃場4m以上の緩衝地帯を設けます。農業用水は、他圃場の排水が流入対策として入水口に活性炭を設置し化学農薬の除去に努めます。いずれの方法も完全なものではございませんが、有機JAS法に基づく規約になります。

③価格の高騰

近年の物価高に伴う、資材・燃料・機械の高騰により、販売価格を引き上げる場合があります。消費者のみならずにはなるべくお求めやすい価格で販売できるよう、いっそう経営努力をまいります。

④有機JAS認証の取得

有機JAS認証とは、農林水産省が定める「日本農林規格（JAS）」のうち、有機農産物・有機加工食品などに関する厳格な基準を満たした製品に付けられる認証制度です。投入する資材は全て有機JAS適合資材です。令和8年9月、9割の農産物において有機JASを認証しております。

転換期間中有機農産物



⑤自然栽培米への挑戦

自然栽培とは、完全な自然循環を最大化しその土地で循環する自然物（米ぬか・もみ殻・藁・雑草・水・土等）のみで人が故意に栽培した農法です。現在、2割の圃場で自然栽培（無肥料無農薬栽培）を実施しています。今後、長い年月をかけて完全自然と調和した自然栽培米を増産します。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

超農力は無限大

